



渡辺勝子さん  
仕事：会社員 田無町在住

「社会の中に自分の場所があり、直接関わっていけるのは嬉しい。定年退職後も生涯現役でずっと働き続けていきたい」と語る渡辺さんは元気の固まりのような女性。

現在勤める職場は、男女同一賃金という雇用条件にひかれて入社。以来35年のキャリアを積む。「入社当時は女性の仕事は総務経理系に限られがちで人事異動も少なく、出張や商談が多い商品部などの部署に女性は加わっていませんでした。男性たちの活躍ぶりを見ながら、生活実感がある女性だからこそやれる職種があるはずと思い続けていた」と言う。

それは、38歳の時だった。突然ビックチャンスが巡ってきた。いわば第一線の商品部門の企画チームに唯一女性メンバーとして抜擢されたのだ。丁度、男女雇用機会均等法が制定された時期と重なるが、それでも子どものいる38歳の既婚女性の登用はかなり異例の人事

だったようだ。

「女性ならではの生活実感や感性を活かし、ベテラン男性に交じって共に知恵を出しあいながら、存分に力を発揮できたと思います。毎日が楽しく、充実した華の時期でした」

様々な商品を開発したが、中でも15年のロングランを誇る女性向けの「手帳」や11種類の樹木で作った「積み木」などの木のおもちゃ類に格別の愛着がある。実際に使った上で意見交流をするモニター制度や専門家も加えたプロジェクトチームでひとつの商品に一年がかりでゆっくり取り組めた、よき時代でもあった。

### 支えてくれたのは家族

「帰宅時間を全く気にせず、思い切り働く事ができたのは、家族の支えがあったから」と話す渡辺さん。「母が保育園に子どもを迎えに行き、私が帰宅するまで見てくれて、働き続ける日々を応援してくれました。祖父母の愛に育まれ、そのおかげで息子は思いやりのある優しい性格に育ったようです。今は私と同業種の仕事に就き、若きリーダーとして張り切っています」「夫とは大学で知り合い結婚。女性の成長を共に喜んでくれる人という確信があった。ねんねこぼんでんで子どもを背負い、行き交う高校生から笑われても気にせず、保育園に送っていったり、仕事を辞

めたいと悩む度に続けた方がいいよと励ましてくれた人」家族と共に歩んだ歳月がよみがえる。

### 自分らしく生きたい

海外出張も多い商品開発の次の仕事はバイヤーで、産地訪問や会議などで全国各地を飛び回った。活躍の舞台も広がり、多くの人と出会って一層やり甲斐を感じていた。その後、教育・研修関連の仕事に異動したが、残業が続く仕事中心の生活にかわりはなく、自分の時間やゆとりが失われている事に気付く。

現在の後方支援的な仕事については、午後5時以後は自分の時間としてはっきりけじめをつけた。

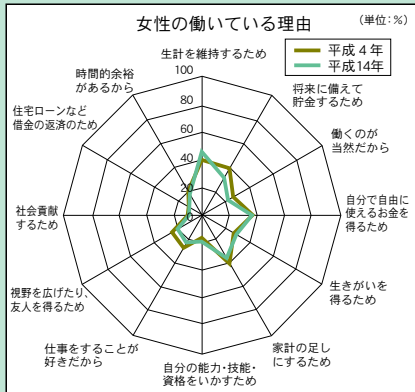
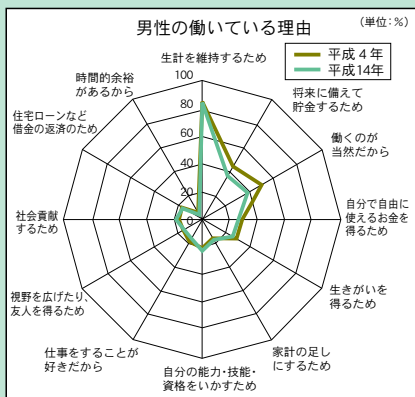
「死ぬまで元気で、社会に働きかけができる人間でありたい。そして誰もがそれぞれの得意なことを活かして、

豊かに貢献しあえるコミュニティづくり」が渡辺さんのモットーだ。そのためにコーチングやワークシヨップのファシリテーター技術などを学び、実践しながら、アフター5を有効に使っている。

「子育てを終えた女性たちがその知識や経験を活かし、地域で子どもを育てるという意味でも、子育てで支援やお料理支援などもできれば」「社会進出をしてもいいし、家庭にいてもいい。その人が自分らしく、本当にやりたいことと好きなことができる自由が必要。年代を越えて豊かな交流があり、楽しい輪が広がっていく。そんな社会であって欲しい」「夢が語れる喫茶店も私の夢のひとつです」

一人の女性として母として職業人として、懸命に生きる渡辺さんの言葉には暖かい説得力があった。

### 現在働いている理由の変化



(備考) 1. 内閣府「男女平等に関する世論調査」(平成4年)、「男女共同参画に関する世論調査」(平成14年)より作成。  
2. 複数回答のため合計しても100%にならない。  
資料出所：内閣府(平成16年版男女共同参画白書より)